



### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

---

## 特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園のESDへの取り組み

### ■ 特筆すべき動き

(1) 第2回ユネスコスクール神奈川県大会を開催（2016年8月27日）

当校を会場に、文部科学省委託平成28年度日本／ユネスコパートナーシップ事業として第2回ユネスコスクール神奈川県大会を開催しました。

大会の第一部では、ユネスコのコソボ内戦後の復興プロジェクトにも参加したシュタイナー教育の専門家（マーティン・ローソン氏）をドイツから呼びし、抽象的になりがちなESDの議論を教育の現場の中から具体的かつ深く意味づける試みを行い、好事例をつくることができました。

第二部では、地域との連携によるESDをつくるふたつのアプローチ、つまり、ASPNetやコミュニティスクールなどの制度的な仕組みを組み合わせるアプローチ（横浜市立幸ヶ谷小の事例）と、地域の教育資源に関わる中間支援組織と連携していくアプローチの事例（横浜市立永田台小、横浜シュタイナー学園の事例）について学びあうことができました。

第一部で子どもの内的発達とESD、第二部で地域とのつながりを取り上げ、「アクト・ローカル」な視点から学びを深めた後、第三部では「シンク・グローバル」な視点でDEAR教材を使った全員参加型ワークショップに取り組みました。70名近い人数でのダイナミックなワークショップは圧倒的な体験。世界のなかの文化的マジョリティとマイノリティへの成りきり体験を経て、最後は世界の富の偏在を手にしたビスケットの数でしみじみ実感するフィール・グローバルな体験となりました。

玉川大学教育学部(ASPUnivNet)の小林亮先生、東海大学教養学部(ASPUnivNet)の小貫大輔先生、聖心女子大学の永田佳之先生からの総評でも高評価をいただきました。

本大会は、神奈川県下のユネスコスクール7校とASPUnivNetである東海大学教養学部、玉川大学教育学部が参加する神奈川県ユネスコスクール連絡協議会が主催して開催し、ネットワークによる共同の好事例となりました。

活動報告書（ユネスコスクール公式サイト）

[http://www.unesco-school.mext.go.jp/joe6iuo5g-3147/#\\_3147](http://www.unesco-school.mext.go.jp/joe6iuo5g-3147/#_3147)

## (2) ESD 重点校 (サスティナブルスクール) 採択

文部科学省委託 平成 28 年度日本／ユネスコパートナーシップ事業「ESD 重点校形成事業 ～輝け！サスティナブルスクール～」の公募にエントリーし、採択されました。3 年間の ESD 重点校形成事業においては、本校の教育の ESD 要素を整理して言語化、ビジュアル化し、社会に共有可能な材料として出版物などにまとめる目標を立て、取り組みを始めました。重点校事業の会合としては、以下に参加しました。

- ・ 2016 年 9 月 22 日 サスティナブルスクール校長・教員研修会 (於 ACCU)
- ・ 2017 年 1 月 28 日 平成 28 年度サスティナブルスクール活動共有会 (於 ACCU)

ユネスコ本部ホールスクールアプローチ事業への参加権もいただいたことから (後述)、そのテーマ「地球規模の気候変動 (クライメートチェンジ)」との連携も計画に加えています。

## (3) ユネスコ本部機関包括型 (ホールスクール) アプローチ事業への参加

上記のサスティナブルスクール採択の過程で、ユネスコ本部の機関包括型アプローチ事業への参加権をいただき、学園として取り組んでいくことを決めました。この事業は、ユネスコの国際フラッグシッププロジェクトのひとつとして「地球規模の気候変動 (クライメートチェンジ)」が共通テーマに掲げられていますが、その取り組みを機関包括型のアプローチによって行うことが重視されています。当学園は、シュタイナー教育の特徴である暗示型 ESD を活かした活動により、教育全体を包括的な質へと変容させる可能性を示したいと考えています。今年度は以下のような活動を行いました。

- ・ 2016 年 11 月 21～23 日  
機関包括型アプローチ 国際ファシリテータ研修 (於セネガル)  
プロジェクト参加国第 1 グループ各国から 2 名ずつ参加。本校からは教員の内村が参加した。
- ・ 2017 年 1 月 28 日  
平成 28 年度サスティナブルスクール活動共有会 (於 ACCU)  
セネガル研修の内容を内村が参加型ワークショップ形式で共有。好評をいただいた。

## (4) 第 8 期ユネスコスクール ESD アシストプロジェクト助成を受けました

第 8 期ユネスコスクール ESD アシストプロジェクト助成に、「循環型社会理解の基礎となる体験型『暮らしと仕事』学習」をプロジェクト・テーマとして申請し、助成を受理していただきました。当学園で実践している 3 年生中心の 1 年間の総合カリキュラム「暮らしと仕事」は、後の ESD 学習の下地をつくるものとして位

置づけています。

## ■ 教育実践上の報告

横浜シュタイナー学園では、学年ごとの成長発達の質的な変化への洞察に基づいた国際ヴァルドルフカリキュラムを日本文化にあわせて再編成し、学期ごとに教科間の連携をとりながら、縦軸（発達段階間の相関性）と横軸（教科間の相関性）の両面にわたる有機的な全体性を備えた ESD を実現してきました。教授法においては、イメージ豊かなお話をを用い、絵画、詩、歌、身体活動など、五感を働かせる芸術的な取り組みを授業全体に浸透させています。このことにより子どもたちは、個々の学びの要素を生き生きとした感情と結びついた大きなイメージのなかで統合することが可能となり、奥行きのある ESD の実現につながっています。

2017年3月5日に開催した9年生（中学3年生）の卒業プロジェクト発表では、来賓の先生方より「ここまで調べ、自分の考えをまとめて発表できる中学生は初めて見ました。しかもその姿勢が真っ直ぐで素晴らしい」との言葉をいただきました。また、「この受験の時期にこれだけの研究に集中したら、通常なら保護者から苦情が届くだろう。点数を追わずに学びの本質に集中すれば、本当の学力が育つことが証明されていると思う。ここに集まっている保護者の勇気に感謝します」とも。学園は今年で4期の卒業生を送り出しましたが、学園の ESD がコンスタントに高い質を保っていることを確認いたしました。

## ■ 自国文化理解に関する活動

横浜シュタイナー学園では、1年生の文字の導入から始めて、わたしたちの固有の文化が成立してきたプロセスを体験的に学んでいます。さらに、3年生では稲作や家づくり体験を中心に生活の営みを支える文化の学びがあり、4年生の郷土学、5年生から始まる日本史へとつながってゆきます。さらに高学年では世界史と日本史の同時並行的な学びによって、自国文化を対象化する視点を育てています。このように、自国文化を深く理解していくためのひとつながりの学びをかたちづくる独自カリキュラムにより、ESD の要である自国文化理解が自然に実現されています。

- ・ 1年生は文字の導入を漢字から始めている。具象的な事物の形から文字が生まれていくプロセスを、物語や絵を通して時間をかけて学んでいる。また、近隣の里山を散歩し、自然のなかでお弁当を食べる時間を多くとり、里山の四季の変化を味わっている。
- ・ 学園の各教室には、黒板のわきの小テーブルの上に季節の風物をモチーフにした飾りが置かれている。2年生クラスでは日本の風物を飾ることが多く、1月には独楽や羽子板などが飾られ、休み時間には異学年の子どもたちが一緒になって正月遊びに興じていた。
- ・ 3年生は1年を里山にお借りしている谷戸田で稲作の体験を行い、自ら脱穀した米を古民家の釜屋で炊き上げて食べた。家づくりの授業では、里山から自分

たちが切り出した竹材を使った家の屋根を収穫した稲わらで葺いた。家づくりの始まりの際には、皆で供え物をして地鎮祭を執り行った。

- ・ 4年生の郷土学では、地元の里山から流れ出している梅田川を源流から下流まで徒歩で辿った。森のなかに湧き出す泉の流れを辿っていくと、流れはやがて田畑のなかを抜けていく小川となり、さらに下ると市街地に入ったところで鶴見川の支流である恩田川に合流し、さらに下っていくと工業地帯を抜けて鴨居の繁華街へと至る。子どもたちにとってこの体験は、川の流れとともに人の営みの発展プロセスを辿る歴史旅行でもあった。  
さらに、港を中心に発展を遂げた横浜の歴史の学びの後、港とその周辺の史跡を探訪して回った。港から放射状に街の歴史が発展していくプロセスを子どもたちは体験し、私たちが暮らす空間と時間の関係を肌で感じ取ることができた。なかには独自の調べ学習を行う子も現れ、地元の丘陵を水源に横浜中心部を通って海に注ぐ帷子川（かたびらがわ）を源流から河口まで自転車で辿った体験を報告してくれた。
- ・ 5年生では、郷土学の範囲がさらに広がり、全国の風物や気象の特色について学ぶ。調べ学習も行う。
- ・ 6年生は日本史の学びの一環として、毎年、飛鳥・奈良旅行を行っている。飛鳥は自転車で歴史的な場所、古墳、建築物を見学してまわった。奈良はあらかじめ調べ学習をした上で、東大寺の各所を拝観した。調べ学習では、大仏、大仏殿、戒壇院、二月堂、法華堂、南大門、七重塔、東大寺ミュージアムの所蔵品、正倉院、四聖、華厳経について調べた。
- ・ 7年生（中1）は日本史の学びのなかで鎌倉遠足を行い、鎌倉幕府跡や寺院の見学の後、切り通しと尾根路ハイキングを楽しんだ。
- ・ 8年生（中2）は地域の方が開催している観能会でお能をみせていただいた。能の「幽玄の美」を堪能できた。
- ・ 9年生（中3）は、にいほる里山交流センターの職員による指導の下、里山の農家で編まれていた竹籠編み細工に取り組んだ。また、手仕事専科の時間に本格的な和裁による浴衣を手づくりした。
- ・ 保護者が自主運営する学童保育的活動「ペレ」で、子ども茶会を開催している。

## ■ 国際理解教育に関する活動

横浜シュタイナー学園では、世界史の学びを通して世界地理と多様な文化の基礎を理解し、その土台の上に高学年では近・現代史にも触れていきます。また、英語と中国語の2か国語を1年生から継続的に学び、言語文化を通して国際感覚を育んでいます。

### 1. 海外の学校との文通（英語科）

- ・ 4年生は、中国の成都华德福学校（Chengdu Waldorf School）と文通を始めた。思い思いの絵を添えて、日本は中国語で、中国は日本語（第二外国語が日本語）で手紙を書いている。旧正月には中国の担当教員が研修で来校した（本項3を参照）。

- ・ 6年生は、ドイツの Freie Waldorfschule auf der Alp と韓国の 평문숲학교 (Prunsup Waldorf School / 緑の森の学校) の 2校と英語で文通している。家族、趣味、自国の休日について、文化の紹介をしている。また、文通相手の名前の音に漢字を振ってあげるなど、相手国との違いや一致を見つけては楽しんで活動している。
- ・ 7年生は、昨年から引き続き中国の成都华德福学校 (Chengdu Waldorf School)、韓国の 평문숲학교 (Prunsup Waldorf School / 緑の森の学校) の 2校と英語で文通を続けている。おせち料理やこたつなど、日本の風物詩を絵とともに紹介している子もいた。

## 2. ゲストティーチャーによる授業

英語のゲストティーチャーとして、海外および日本在住の外国人の方をお招きし、英語で話を聞き、ワークショップを行った。

- ・ 2016年2月2日 マイケル・リッチさん (横浜桐蔭大学講師)  
イギリス人ミックさん (マイケルさんの通称) をお迎えし、身体を動かしながらのゲームから始まって、「イギリス」のイメージ、そしてイギリスと日本の違いを、自動販売機やお風呂、電車など具体的なものから生徒たちに考えさせ、英語での質疑応答を行った。
- ・ 2016年9月8日 青山蓉香さん (英会話講師)  
自身もシュタイナー学校卒業生である青山さんはロンドンの大学に進学し、帰国して英会話を教えている。イギリスと日本のジェスチャーの違いや、気候、食べ物、習慣の特徴を Q&A 形式でわかりやすく教えてくれた。

## 3. 外国からの方々との交流

- ・ 2017年2月 旧正月休みを利用して中国と台湾から日本語専科教員が来校し、授業見学を行った。教室で子どもたちと一緒に弁当を食べ、子どもたちも教員もそれぞれの国の文化がもつ雰囲気を楽しむことができた。中国語で先生に話しかけたり挨拶したりする子どもたちの姿も見られた。

## 4. その他

- ・ 4年生は北欧神話や古事記の学びなど、神話世界の学びを通して、さまざまな文化の根底に流れる原型的イメージを体験している。5年生はグリム童話「ルンペルスティルツヘン」の英語劇に取り組んだ。
- ・ 7年生はネイティブアメリカンの祈り (ラコタのチーフ、イエローラークによる) を暗唱した。それを導入に、エコロジカルな世界観を擁するネイティブアメリカンの物語「虹の戦士」を読み始めた。
- ・ 韓朱仙先生 (「海外の学校との文通」の項参照) のお話を通して、日朝韓の異

- なる歴史認識や在日朝鮮人文化を理解し、東アジアの平和について考える授業を行った（9年生）。
- ・ DEAR 教材「もしも世界が100人の村だったら」ワークショップ。（8・9年生）
  - ・ DEAR 教材「パーム油の話」を用いて、ロールプレイ会議付きのワークショップ学習を行った。（9年生）
  - ・ 歴史のエポックで19～20世紀の各国の関係を自分たちで予想し、実際の歴史と比べながら学んだ。（9年生）

## ■ 地域の教育資源の活用

地域の教育資源の活用として、学園に隣接して広がる新治市民の森の活用が継続的な取り組みとなっている。森の活用にあたっては、とくに以下の団体との連携協力関係に負うところが大きい。

- ・ NPO 法人新治里山〈わ〉を広げる会  
横浜市にはる里山交流センターの指定管理者で、新治市民の森の管理や古民家の管理を行っている。教育機関との連携に積極的。
- ・ 新治谷戸田を守る会  
NPO 法人新治里山〈わ〉を広げる会の内部組織で、谷戸のたんぼを維持している。
- ・ 新治市民の森愛護会  
横浜市環境創造局と連携して森の手入れを行っている市民団体。
- ・ リラク菜園  
地域に広がる広大な農家の敷地の一角を借りて、たき火や炊事のできるスペースをつくっている地域コーディネーターさん。畑の野菜を収穫したり、野草を摘ませてもらったり、農家と地域を上手につないでくださっている。

上記の団体の支援をいただきながら実施した主な活動は以下の通り。

- ・ 地産地消で取り組んだ家づくり  
新治市民の森愛護会のご協力により、3年生が毎年取り組んでいる家づくりの授業を地産地消で行っている。家の柱となる竹材は里山から子どもたちの手で切り出した。子どもたちの手によって校庭に建てられた本格的な家は、年度末に解体して愛護会が手入れして出た木の枝や下草とともに横浜市資源循環局で堆肥化していただいた。地域に田畑をお借りして続いている、稲作、畑作体験とともに、今後も継続していきたいと考えている。
- ・ 谷戸田での米づくり  
地域のたんぼの会の協力を得て、谷戸田を一区画お借りし、田植えから収穫までを一貫して体験している。収穫した稲の脱穀も体験。収穫した米は子どもたちが自ら脱穀し、それを精米して、里山の古民家（旧奥津邸）のかまどで炊いて食した。稲わらは手づくりでお正月飾りのしめ縄にして飾った。稲作の指導は、教員が交流センターの谷戸田を守る会に参加して学ばせていただいた。（3年生）
- ・ 植物学の生きた学習材料として

三保市民の森、新治市民の森は、日本有数のシダ類の宝庫だと言われている。5年生の植物学では、森のなかでシダや菌類、広葉樹林、針葉樹林の観察を行い、学びに活用している。

- ・ 川の流れを辿る歴史の旅  
自国文化理解の項を参照のこと。
- ・ 里山の産物を利用した工芸体験  
9年生の竹籠編みの体験（自国文化理解の項参照）
- ・ 「学園周辺ぐるっと探訪会」  
学園周辺の史跡やお世話になっている施設や里山などを保護者が訪問し、学園のESD活動に対する理解を深めた。保護者も地域に親しむことで、ESDの幅が広がっていく。学外の方向けの探訪会も開催している。
- ・ ほたる舞うタベの集い  
新治市民の森の梅田川・一本橋めだか広場でほたるの鑑賞会を開催。初夏の夕暮れからホタルが次第に舞い始め、光が群舞する8時頃まで、大人も子どももホタルの繊細な光を愉しんだ。
- ・ たき火の楽しさを味わう  
地元の街づくり活動を通じて知り合ったリラク菜園さんを通じて、若葉台地域北部に広がる広大な畑を囲む林のなかで思う存分たき火ができる広場をお借りしている。学園の父親の会が主催し、食と遊びを通して生きた生活の学びを楽しんでいる。

このほかに以下の地域団体とも連携協力関係にある。

- ・ 横浜市緑土木事務所  
市内の公園の管轄行政。同事務所の要請で当学園が公園愛護会を結成した。8年生（中学2年生）が、園芸の授業の時間を使って担当する公園の手入れを行っている（花壇づくり、見回り、清掃など）。地域の高齢化が進み自治会が公園愛護会の担い手になりにくい状況への対策となる好事例をつくっている。
- ・ 霧が丘六丁目まちづくり推進会  
横浜市の条例に基づく「地域まちづくりプラン」のプランづくりに協力し、同プランは約2年かけて横浜市の認定を受けた。地域連携から得た学園の幅広い視野をプランにも活かしていただき、持続可能な地域社会づくりのよき指針ができた。
- ・ NPO 法人ふかふか  
知的障がい者の就労支援活動として、ベーカリーやカフェ、惣菜店やアートショップを運営するNPO。演劇に取り組むなど、従来の型にとらわれないユニークな活動をされている。

その他の活動として次のようなものがある。

- ・ 保護者が自主運営する学童保育的活動「ペレ」で、地域オリエンテーリングを行った。地域に住む家庭を巡り、地域との絆を子どもたちが実感する体験を重ねて、楽しみながら非常時の備えとしている。また、地域の森を使っての冒険遊びも行っている。



## ■その他の教育活動

- ・ 3年生の生活の学び  
学園では、3年生の時期に体を使って生活に関わる体験に集中的に取り組むカリキュラムが組まれている。
  - a) 家づくり（前項「地産地消で取り組んだ家づくり」参照）
  - b) 職人の仕事の学び  
天然酵母を使い、発酵から焼き上がりまで時間をかけて、おいしいパンを焼き上げた。地域の天然酵母パン工房「ぷかぷか」（地域資源の項参照）にご協力いただいた。  
学園にご縁のある職人さんに来校いただき、箸作りを体験した。
  - c) 米づくり、畑づくり  
新治市民の森の谷戸にある田んぼで、無農薬の稲作を田植えから収穫まですべて体験した。また、徒歩圏にある校舎の大家さんの畑で、里芋などを育て、収穫した。
- ・ メイン授業の時間帯に生命学の授業を2週間にわたって行った。生命の歴史をたどりながら、なぜ有性生殖が行われるようになったかを考え、ヒトの生殖についての学びに結びつけた。（7年生）
- ・ 2016年2月 シェイクスピア『十二夜』を上演（8年生）  
大道具、小道具、曲選びと編曲、衣装のデザインと製作、チラシとプログラムづくりまで生徒が自分で行い、定員500名のホールの舞台に本格的な舞台をつくりあげた。すべてが生徒自身の自発性から生み出された舞台は、観客の心を魅了してやまなかった。
- ・ 卒業プロジェクト（9年生）  
9年生（中3）の卒業プロジェクトでは、約1年をかけて、自由課題として以下のテーマに取り組み、保護者やゲスト約140名の聴衆の前で発表した。それぞれが綿密な調査と深い思索を経た発表を、自分自身の言葉で生き生きと観衆に伝えきった。発表後の質疑応答にもきびきびと答えていた。以下にプログラムに載せた生徒の案内文を引用する。
  - a) 「The World of Mechanical Pencil」（男子）  
私は、みなさんが知っていそうで知らない、シャープペンのしくみや特徴を紹介していきます。この発表を聞いて、ぜひシャープペンに興味を持って使っていただけるといいです。  
毎日使うシャープペンで、便利な物はたくさんあります。特に超人気のクルトガなどのしくみをわかりやすく伝えられるように頑張ります。また、試し書きもできるのでどうぞお書きください。
  - b) 「Battle Ship」（男子）  
「19世紀、イギリスの産業革命の結果登場した戦艦。その結果、世界に大きな影響をもたらすことになる。だが、第2次世界大戦後歴史から姿を消した戦艦。その背景には何があったのか。」ということをも日本を中心に話し

ていきたいと思います。

c) 「乗馬スタイル」(女子)

馬と人の関わる大きな部分は乗馬です。乗馬と聞いて貴族の優雅なスタイルを思い浮かべる人、カウボーイのウエスタンスタイルを思い浮かべる人等、イメージは様々だと思います。私はブリティッシュと呼ばれるイギリス貴族や軍隊から発展した乗馬を習っています。私は何故ブリティッシュを習いたいのか、ブリティッシュの魅力は何なのか、ウエスタンとブリティッシュを比較しながら、乗馬スタイルについて発表したいと思います。

d) 「Bicycle & Society」(男子)

近年、日本でも自転車の利用者が増えるなか、様々な問題が生じています。今回は、その中の一つの「対歩行者の自転車事故」について取り上げます。そして、自転車がどのように変化してきたのかということも合わせて話していきたいと思います。

e) 「消えた前期里見氏の歴史」(男子)

私は戦国時代に興味がありました。そして私の父の実家が千葉にあることから、房総里見氏の存在を知り、里見氏の資料を読み始めました。しかし、資料によって全く違う史実が書かれており、どの資料が正しいのかわかりません。それが私の中で謎のままの存在だったので、今回この機会に自分なりに正しいと思う形にまとめたものを発表したいと思います。

- ・ 9年生は、昼休みに別校舎に分かれている低学年の教室を訪問し、一緒に食事をした後、一緒に遊ぶ時間をもった。小さい子どもたちは見上げるような9年生に群がって遊び、9年生も楽しそうに相手をしていた。9年生以外にも、保護者が自主的に運営している学童保育的な活動に参加して、自発的に小さい子どもたちの面倒をみる上級生が毎年いる。学内に縦割りのいい関係が育まれている。

## ■教職員保護者研修および交流活動

- ・ 2016年3月28日、当校で神奈川県ユネスコスクール連絡協議会の会合をもち、第2回ユネスコスクール神奈川県大会の企画内容について話し合った。企画草案は横浜シュタイナー学園が作成し、ほぼその内容に沿って進めることが承認された。参加者は、住田昌治先生(横浜市立永田台小学校長)、小正和彦先生(横浜市立幸ヶ谷小学校長)、小林亮先生(ASPUivNet 玉川大学教育学部)、星久美子さん(ASPUivNet 東海大学教養学部)。
- ・ 2016年7月29~30日、ASPUivNet 東海大学教養学部主催の合宿型ワークショップ「UNESCO ユースセミナー2016 ~多様化・多文化化する日本の学校~」(東海大学湘南キャンパス)に、本校から2名の教員が参加した。
- ・ 2016年8月26日、横浜市教育委員会が主催するESDコンソーシアムの教職員研修に当校の事務局長がオブザーバとして参加した。
- ・ 2016年8月27日、当校で開催した「第2回ユネスコスクール神奈川県大会」に教職員および保護者22名で参加した。司会進行は当校の保護者(ユネスコグループ・メンバー)が担当した。第二部のパネルトークには当校教員の小林裕子がパネラーとして参加した。(詳細は「特筆すべき動き」を参照)

- ・ 2016年8月29日、マーティン・ローソン氏を囲んで近隣の学校の教員とともに教員研修を行った。
- ・ ESD重点校とユネスコ本部機関包括型アプローチプロジェクトに参加。(詳細は「特筆すべき動き」の項を参照のこと)
- ・ 2017年1月、平成28年度ユネスコスクール・アンケートを提出。
- ・ 同、パリ本部機関包括型アプローチについてのベースライン調査に回答。
- ・ 横浜市内のフリースクールを取りまとめている横浜市子ども支援協議会を通じて、横浜市教育委員会との様々な連携事業に参加した。また、神奈川県内のフリースクールと公教育との連携をつくっている神奈川県学校フリースクール等連携協議会にも登録し、県教委と同様の活動に取り組んでいる。
- ・ 街づくりへの関わり(「地域の教育資源の活用」の「霧が丘六丁目まちづくり推進会」の項参照)
- ・ 2017年2月「多様な学び実践研究フォーラム in 関西」に参加し、神奈川・横浜における行政(教育委員会)との連携事例について報告した(分科会「オルタナティブな学びの場—支えあう組織づくりに向けて」)。
- ・ 緑区民祭り、ベジフォークマーケット、カンガルーフェスタ、シュタイナー子育てフェスタなど、様々な環境系、子育て系のフェスティバルに出展した。
- ・ 6月に学園祭とオープンディを併催、12月にはクリスマスイベントとしてのオープンディを開催し、地域の方を含む多数の方々に学園の温かな雰囲気を感じていただいた。

## ■教員養成

- ・ この教育を持続可能なものにしていくために、自分たちで教員養成基礎コースを2015年11月から開催し現在約30名の受講者が学んでいる(2年間全8回)。このコースに学園の現役専科教員も参加しており、学園の教育の質保証にもつながっている。  
この教員養成では公立学校の現役の先生も多数学んでおり、公教育の質的向上に資する取り組みともなっている。来年度から始まる第2期のコースでは、ユネスコスクールのネットワークにも積極的に案内し、幅広い方に参加していただきたいと考えている。

## ■保護者の活動

- ・ 第2回ユネスコスクール神奈川県大会の準備のほとんどを、ユネスコスクール活動グループの保護者が行った。大会の司会も保護者が担当した。
- ・ 教員と保護者によってNPOの理事会が構成されており、多くの保護者が運営の中核に関わっている。また、学校運営についての決定機能を有する運営会議がほぼ毎月開かれ、この会議には保護者全員が参加できる。
- ・ 全学年が入れる新校舎取得のためのプロジェクトが活動している。
- ・ 保護者の自主活動による学童保育的活動「ペレの家」が毎放課後活動しており、低学年を中心に多くの家庭が利用している。
- ・ さまざまな集会やイベントに出店するお菓子と軽食のデリバリーサービス「お

ひさまカフェ」を保護者有志が運営し、収益を学園に寄付している。

- ・ 昨年に引き続き、校舎の壁の塗り替え工事を保護者が行った。
  - ・ クラウドファンディングを利用したチャレンジ寄付活動（マラソンやサイクリングレース等）を保護者が推進している。
  - ・ たき火、地域オリエンテーリングは「地域の教育資源の活用」の項を参照。
  - ・ その他、保護者による様々な活動が学園を支えている。
- 

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）